

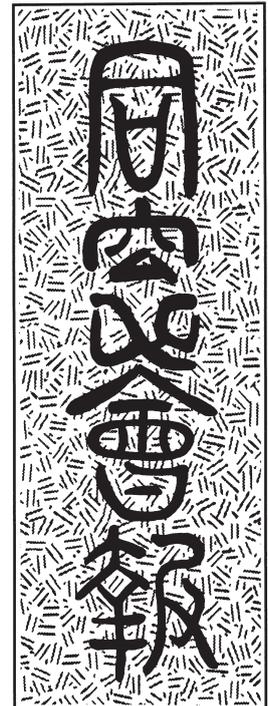
快晴の今庄365スキー場で



午後の始まりは「読書タイム」



同窓会は鳥羽小の
教育活動を支援しています



平成20年3月
第17号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〔平成19年度卒業生〕





ご挨拶

同窓会長 福谷 洋
(昭和27年度卒)

鳥羽小学校同窓会員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで、輝かしい新春を迎えられた事と、遅ればせながらお慶び申し上げます。

私、昨年五月、前会長兼松勉氏の推薦をいただき、理事会の選任を受け、未熟をも省みず、歴史ある同窓会長の職を拝命致しました。もとよりその器量ではありませんが、皆様のご指導と、ご支援を賜り、重責を努めさせていただきましたので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて昨今の私達を取りまく環境は毎日の新聞、テレビ等では、暗いニュースが多く、内外共に、前途多難な明け暮れとなり、政治・経済も混沌としております。そのせいかもしれません、あの貧しく、苦しかった戦後の時代の、人と人との温かい絆が懐かしく脳裏を過ぎります。

私達鳥羽小学校の環境も、舞鶴若狭自動車道の工事着工に伴い、児童の通学路も一部変更され、鳥

羽川堤防を利用して登下校しなければならぬ状態です。

幸い鳥羽地域ではありませんが、各地で児童、幼児に纏わる犯罪、事件が頻繁に発生しております。これらの犯罪から児童を守るためには、学校・家庭・地域が三位一体となった連携をなお一層強力にしていく必要が急務であると思えます。私共同窓会員は、この「地域」の役割を担い、幼児・児童・生徒の皆さんが安心して、勉強やスポーツに専念できる環境を作るために、連携をより深めて参りたいと思えます。

今般会報誌の発刊にあたり、ご寄稿をご依頼しました方々には快くご協力をいただき誠に有難うございました。

また、会員の皆様方には、今後とも鳥羽小学校ならびに同窓会活動に、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様方が益々ご健康で活躍されんことをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

学校長 橋本 須美子

「雪がのうて、ありがたいのう」これは、近頃の時々の挨拶です。

降った雪が凍てついた朝に、田んぼの上を近道して登校したことを思い出し、雪深いふるさとを懐かしむ同窓会会員の方も多いのではないかと思います。しかし、鳥羽谷も、近年ますます雪が少なくなり、今年は、低学年のそり教室が三度も延期になりました。

また、舞鶴若狭自動車道の建設に伴い、三田地係の盛土工事が始まり、多くのトラックが、麻生野・三田間を列になって走り回っています。四季折々の風物詩だけでなく、懐かしいふるさとの原風景もさらに変わりつつあるので

さて、平成二十年も明けました。同窓会会員の皆様には、つつがなくお暮らしのことと存じます。日頃より、本校の教育に温かい想いを届けていただき感謝申し上げます。

私は、昨年春、鳥羽小学校に三度目の赴任をいたしました。担任

で五年、教頭で四年、この教頭時代には同窓会の庶務を務めさせていただきました。そして、今回は校長としての勤務です。

鳥羽小学校長の辞令を拝命し、思わず『三度目の正直』ということわざを思い浮かべました。『三度目の正直』を辞書で引くと、「勝負や占いなどで、最初や二度目は当てにならないが、三度目は確実であるということ」と書かれていて、「今まで以上に確実な仕事をせよ」と叱咤激励されているようで、身の引き締まる思いがいたしました。

学校の近況ですが、今年度は、新しくコミュニティ・スクールの取り組みが始まり、「鳥羽地域・学校協議会」を立ち上げました。

この取り組みは、協議会を中心に、家庭・地域・学校が尚一層連携を深め、人材活用や地域との交流を更に豊かにして、双方向での開かれた学校づくりを目指していきます。このような取り組みを通して、地域の方々のお力をお借りし

ながら、共に、ふるさとを愛し、ふるさとを担って立つ子ども達を育てたいと思います。

同窓会会員の皆様には、今後とも温かいご理解とご支援を賜りま

すようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位のご健康とご多幸、そして、本会のみますの発展をお祈りしご挨拶とさせていただきます。



ちりとてちん

坂田 保

(昭和27年度卒 旧姓 西川)

10月からNHKの朝のドラマ「ちりとてちん」を毎日観ています。筋書きも面白いのですが、若狭弁に郷愁を感じているのは私だけではないと思います。「ほうやのう」「おんなるけ」等々。若狭を離れて越前に来て50年近くなるので特段親しみを感じています。皆さんも応援しましょう。若狭を全国に発信しましょう。

同窓会会長からの電話で原稿の執筆依頼を受けました。会長には公私共に大変お世話になってのことから断り切れず、引き受けることにしましたが何を書いて良いやら戸惑いながらパソコンに向かい取りとめの無いことを書きましたのでお許し下さい。

小学校の思い出といっても60年

前の事であり何があったのか早速平成11年発行の「創立一〇〇周年記念同窓会誌」を開いた次第です。

この事を見ても如何に戸惑いがあるか分かって頂けると思います。認知症に近い頭で記憶をたどり何があつたのかと思ひ出すと、教室には薪ストーブが有って当番が家から薪や枯れ枝を持って大雪の中を行った事。アルミ容器の日の丸弁当をストーブで温めて食べた事。木綿の袋に竹の筒を付けてイナゴを取りながら登校した事。回虫駆除と称して、あの苦い海人草(カニンソウ、漢方薬)を飲まされた事などが思ひ出されましたが、勉強の事などは何も覚えていません。同窓生は56名でしたが、

地元の鳥羽におられる方が半分以上なので、同窓会が頻繁に行われています。出来る限り参加して、バスの中で酒を飲み、宴会で飲み、二次会で飲むといった所です(二次会では殆ど寝ていました)。又趣味のゴルフでは「かがみ会」に入れて頂いており、年間数回参加させて戴いていますのも地元と同級生の誘いを受けたことから、楽しい思いをさせていたただいています。

後の卒業生であつたことが強烈な印象に残っています。鳥羽中学校跡地は、育雛場となり悔しい思いをしていましたが、近年保育園となったことを知り、拍手を送りたいと思います。

中学は、昭和31年度第10回、最後の卒業生であつたことが強烈な

近況を申し上げますと、農業団体を定年退職したのは58歳でしたので、ハローワークの職業訓練生となり10ヶ月間猛勉強をしまし



「ゆずりは」

宇田 保夫

(昭和32年度卒)

た。特にパソコンは20名の講習生がおり、それまでは複数の人で利用していたデスクトップ型から、一人一台のノートパソコン貸与に変更されたのが、我々からだったのもラッキーでした。毎日二時間、基本からみっちり勉強したおかげで人並みに操作できるまでになった事が幸いでした。そのお陰で、後に土地改良区の事務局長を務めることになり現在に至っています。

米作りも4人が共同で5町歩程度を耕作していますが、価格破壊によるコスト割れは危機的な状況で兼業農家の耕作意欲を無くしています。集落営農を始める準備もしなければならず、その仕事にも顔を出しています。趣味のゴルフもお誘いを受ければ断らない事にしていますので皆さんよろしく。(三生野出身 福井市在住)

上中中学校を卒業する時に「将来は田舎の一教師になる」と書いて

たことを覚えている。当時別れになる友達とサインを交換する

ことが流行っていたのだろう。同級の池上淳君は「人も虫も生まれる生きる死ぬ」と書いた。随分変わったことを言うなあと思ったことを思い出す。

私が教師に憧れたのは、紛れもなく憧れの先生との出会いであった。小学校の三年生までは岡野きよ子先生であった。いつもにこやかに美しい先生であった。頼まれごとを終えて報告すると、「アリガジュツピキ」と言われた言葉が何とも嬉しかった。六年生までの三年間は森北良二先生であった。夏も雪の降る寒い冬も、毎朝授業前に天突き体操や乾布摩擦で鍛えられた。お陰で風邪一つひかなかった。中学三年生の二期期だったと思うが、定期試験の始まっている夜中に、担任の寺下岩夫先生から電話がかかってきた。「おう、やっとなるか」の一言であった。数学の苦手な私を心配して励ましてくださったのだった。緊張したが嬉しかった。私の周りにはいつもこのような先生がいらっしやっ

た。鳥羽小学校の子供たちの活動ぶりを時々会報などで見せて頂いたり、子供たちに出会うと元気に挨拶してくれることで、今も先生方

の手で行き届いた教育がなされていることを知り、嬉しく思っている。話は変わるが、少子高齢化の時代にあつて、元気なのは高齢者である。畑仕事、ゲートボールと毎日忙しく澆刺として活動されている。羨ましい限りであるが、その原因は仲間なのである。毎日を仲間と過ごすことの楽しさを満喫しておられる。生きがいとはこういう活動の中から生まれるものかも知れない。子供時代からの友達は一生涯続くものと思うが、やはり、その節目節目の活動を共に過ごした仲間との思い出が支えていると確信している。

最後に、「親は子供が成長するのを待つて後を譲る」という意味を持つ正月のめでたい（ゆずり葉）の話を一つ。昔、ある高僧のもとに、年始に来た男が記念に縁起の良いことを一筆と頼んだ。僧は快く応じて「親死に、子死に、孫死ぬ」。男は怒つて「正月早々何でそんなことを書くのか」と抗議す



同窓会参加 雑感

新 屋 守 彦

(昭和34年度卒業生担任)

「鳥羽小学校 昭和35年3月卒業」「還暦記念同級会」を開きます。私達、勤めの終着駅に着きますが、人生のレールはもつと先まで伸びております。先生から学ぶべきことがまだまだ沢山あります。11月15日には是非顔を出してください。

私が47年前に教師になって最初に担任した子供達からの案内でした。うれしかったです！

北陸線から敦賀で乗り換えて小浜線に乗る。ウワーツ電車だ。あの当時は煙を吐く蒸気機関車だったのに、そして今放映中の「ちり

ると、僧は微笑んで「こんなええことはない。これが逆になったら大変なことだ」と言つたので男はなるほどと納得をして、その書を大切に持ち帰つたという話である。(大鳥羽在住)

とてちん」の番組に出てくるのは黄色のデューゼルだった。やはり世の中変わっていくな。

大鳥羽駅で降りる。駅員のいない無人駅、M君が私を待つてくれた。「さみしくなつたね駅も」、「もう慣れたよ」ポツリと元気の無い返事だった。当時お世話になつたなつかしい人々を訪ねる。47回お互いに同じだけ年齢を加えたから、そんなにふけたとも思えない。なつかしいな、なつかしいあの言葉を何回繰り返したことが、風景や建物は変わつても人情は変わっていない。

若き日の2年間を過ごした憶いをいっばいに秘めた小学校を訪れた。当時の面影は一つもない。全部木造だったものが全部コンクリートに変わっていた。裏山の杉の木立だけが変わらずに私を迎えてくれた。あれから何千人という子供さんがここを卒業して行ったのかと、夕暮れせまる外運でポカんと立っていました。

私は当時、元鳥羽中学校の空き宿直室に2年間住まわせてもらっていた。なつかしくて訪れたがこれも跡形もなく取り壊され、そこには近代的な保育園が建てられていた。周囲の道路も改修され私の脳裡に描く景観とは大きく異なっているのに驚くばかりであった。明日会える団塊の世代を乗り越えた彼等もこんなに変わっているのだろうか。

言葉に表現できない何かに身震いする気持ちをどうすることも出ず、夕霧のかかる見なれた鳥羽谷を見つめました。

同級会で酒を飲みながら、以前と変わっていない彼等を見ながら、大学出たての新米教師が命がけで教えた毎日を彼等は知っているだろうか、色々な憶いが交錯した。

5年生の算数、長方形の面積、縦×横、何回説明しても理解されず最後にはノートを一枚縦×横、ずたずたに切ってしまった。

夏休み前の暑い午後、彼等にもう勉強いやとせがまれて、鳥羽川で腰まで濡らしてシジミ取りに興じ、たくさん取った。しかしそれをどうしたか全く今は憶えていません。

家庭科の授業に、道具箱の中には針が一本もないという。女先生の受け持ちの教科だった。「先生をなめたらあかん」「家まで行って取って来い」…5年生の男坊主が麻生野の家まで走って取りに行った。汗だくになって帰って来た時には授業は終わっていた。悲しい出来事でした。

バスにゆられて、紅葉の比叡山「根本中堂」でお詣りした通り、これからそれぞれに生きる「根本」は揺らぐことなく、上手に年を重ねていただきたいと思いつつつかしい顔、顔とお別れしました。
(福井市池尻町在住)



昔の生活から、今学ぶ事

河村 由紀子

(昭和43年度卒 旧姓 大下)

今回同窓会報原稿依頼のお話をいただき、お正月のゆつくりした時間の中にフツと昔を思い出す機会を与えていただきました事を感謝しつつ、拙い文ですが書き綴っていきたいと思います。

朝、赤いランドセルを背負って家の前の坂道を駆け下りて行くのと、電線に止まった雀がチュンチュンとやかましい程に鳴いていました。山内の通称「ばんば」にみんな集まって登校。雪が降って凍った朝はよく雪の上を歩いて学校へ向かいました。日の光に輝く雪の眩しかった事…。学校近くになると、気温も上がってきてズボズボぐいたり、溝川を飛び越えそこねてはまり大きい子に助けてもらったり、時には小さい子を助けたり…。距離的には一直線で学校まで近いはずなのに、なぜかいつも着くのは始業時刻ぎりぎりでした。

登校の事でもう一つ思い出すのは、いつも曜日が決まっています、

その日は必ず家で採れた野菜を風呂敷に包んで、学校の給食に持って行ったことです。人参やじゃが芋はまだいいにしてもキャベツや大根の重かった事。困っていると大きい子がさりげなく持ってくれました。また、数ヶ月に一度は母親が給食の手伝いに学校に来てくれて、その日は何となく朝からさわさわし、うれしいような恥ずかしいような気持ちで給食を食べた事を思い出します。

道草を食いながら帰って来てすぐ火の見やぐらのある「ばんば」に集まり、まだ来ぬ子達の名前を大声で呼び合いました。「○○ちゃん、あーそぼけー」その声が集落中にこだまし、次々とみんな集まって来ました。ゴムとび、瓦当て、エス、缶けりに影ふみ、えこの川での魚つかみや川底の青い粘土で遊んだ事、田んぼやいなぎでの遊び等数え上げたらきりがありません。そうそう、秋の終わりだったでしょうか、大きい子に

山へ弁当持ちで野イチゴ摘みにみんな連れて行ってもらった事がありました。たくさん摘んで帰る頃になり、空模様が変わってきて雨が降りそうになってきました。

大きい子の指図により、木の蔓を4、5本の木に渡し、網の目状にし、その上にシダの葉をいっばい採ってきて乗せ、屋根を作って雨宿りした事がありました。その時の一人一人の動きといつたらまるで、一つ一つの歯車が噛み合って行くように、真剣に働き、みるみる内に出来上がりました。そんなみんなが一つになって創った屋根、ワクワク心躍った瞬間、雨の雫が所々落ちてくる下で食べた野イチゴの味、今でも忘れられませ

ん。昔、私達の子どもの頃は、塾や習い事にも行かず、学校から帰ると友達と遊んだり何かを作ったり、自然の中で遊んだり、家の手伝いをしたりして日々過ごしていました。大きい大將的な子がいて、その下の子もいる、けんかもしました、泣きながら帰った事もありました。

そんな中で私は、社会性、創造力、他人との感情の共有、物事の発見、危険なものや自分がおもし

ろいと思うものの認識等、大人になつてからや勉強ばかりでは得がたいものを身に付けてこられたのではないかと思えます。

また、命についても真正面から向き合った生活だった様にも思えます。

私の父は、おめでたい時や行事等の時によく鶏を料理しました。鶏の首をしめ、殺し、首を切つてぶら下げておく、羽をむしり、料理していく。私は、小さい時はその行為を当たり前の事として見ていました。私が、物心ついてからは、何と野蛮な事をするのだろうか。かわいそうに思わないのだろうか？と思う様になりました。しかし、今、私は命というものを考える時、本当にそうなのだろうかという疑問にぶつかりました。

現在、社会では、一般にマーケットへ行き、トレイに入った肉を買います。そして食べるだけ食べ、余れば肉は捨てられる。そのような行動の中でその肉は、生きた豚や鶏を殺して得たものであり、それらの犠牲があつてこそ私達が生きていけるという認識が持てるものが何人いるであろうか、私達は肉を完全に「物」として捉えている事が多いのではないだろ

うか？ 鶏が苦しむ姿をこの眼で見、感じ、真剣に向かい合い、それでも自分達の命の為に殺す。だからこそ、一片の肉をも無駄にしないで湯がいて骨の付いた肉をも私達子どもにしゃぶらせる。

こういう事を考える時、命に対して真正面に向き合う昔の生活の中に、残酷などという表面的で甘い考え方をしていた私は、人間としての未熟さを感じずにはいられませんでした。私は昔の生活の中で様々な多くの事を身を持って学んできた様に思います。

今、地球規模で言われている事に、環境破壊や温暖化の問題があります。私は自分が育ってきた環境の中にあつた自然を守る事の大切さと共に、人間がいかにうまく自然と付き合うかが問われている時代なのではないかと思えます。現代に生きる私達は、未来の世代の生存可能性を狭めてはならないし、生態系の保全が非常に大きな課題であると思えます。

現在私は、昨年新しく建つた「とばっ子保育園」に勤務させてもらっています。自分のふるさと鳥羽谷においていた、子ども達、保護者の方々、地域の方々

に親しくしていただいています。事、本当にありがたく、感謝の気持ちで毎日を送らせてもらっています。

私が過ごしてきた鳥羽の原風景、そして自然の素晴らしさ、おもしろさを少しでも子ども達の中に残せたら・・・。楽しかった子ども時代の記憶をこの子達の心にも根付かせたい・・・、やんちゃもいたずらもケンカもするけど、そこに何とも言えない子どもらしい温かいものが流れている子ども達の心。きっと鳥羽の良さをみんなが受け継いでいるのでしょね。

自然を大切に思う心というのは、自然の中に身を置いてこそ培われるものだと思うし、ふるさとを愛する心というのは、地域や周囲の人々に心をかけてもらい、自然の中でどんなに豊かな体験をしたかで育っていくものではないでしょうか。

自分の受けた恩恵を次の世代へ少しでも繋いでいけたら・・・との思いで、微力ながら子ども達に向かい合う日々。鳥羽の子ども達も益々元気に健やかに育つていってくれる事を願っています。

(山内出身 若狭町相田在住)



わたしのふるさと

坂本 珠代

(昭和50年度卒 旧姓 小川)

平成二十年元日、京都では暖かな陽の射す穏やかな年明けを迎えた。今年一年が今日のお天気のように暖かで穏やかな年であることを願いつつ、空を見上げると、北の空は暗い雪雲が垂れ落ち、向かうとして上中、鳥羽谷の降雪を思わせた。雪に対する備えない車に辛うじてチェーンだけを用意し、朽木、保坂を越えて無事に鳥羽谷まで行き着くのだろうかと思配しながら昼過ぎに京都を出発。北に向かうにつれ寒さが増し、みぞれ混じりの雨が雪に変わる頃には周りの景色もうつすらと雪化粧。降り出して間もない雪はとも白くてきれいで、車窓からの雪景色にうっとり見とれるほどだった。いやいや雪に見とれている場合ではない。どこで、どのタイミングでチェーンを付けるのか…との心配も徒労に、たいした降雪もなく無事に到着することができた。数年ぶりに雪に惑わされながらも実家に帰り着く。こうして

私は毎年実家に帰ってくる。帰ることの出来る田舎がある。私が小学生の頃、当たり前だった風景。春になれば土筆が顔を出し、しろかきされた田んぼの中にオタマジャクシの卵を見つけ取りに帰ったこと。そのオタマジャクシに手が届く頃には田植えも終わって、5月の心地よい風から、雨の続く季節へ。長靴を履いての登下校。我が子が小学生になつてから、一度も目にしたことがない光景。夏になれば遊び場と呼んでいた広場で日の暮れるまで遊んだこと。私が自転車に乗れるようになったのもこの遊び場が初めてだった。夏の終わり、土手に真っ赤な彼岸花の咲く頃には、稲刈りを手伝ってお風呂に入ってもまだはしかかったこと。雪が降ればお宮さんの階段まで行って楽しんでさすりすべり。田んぼに積もった雪が凍てついた朝には、道なき田んぼの中を近道して登校した。思い出せば、四季折々の自然

に触れ、当たり前のように目の前に広がっていた風景。そしてその自然に寄り添うように営まれていた生活。そのどれもが、私が生まれ育った鳥羽谷での記憶です。いま、京都の真ん中で生まれ育つ我が子には、体験することの出来ないことばかりです。私がこんな田舎を持てることをとても誇りに思い、我が子にこのような祖父のいる田舎を堪能させてあげられることをとても嬉しく思います。ふるさととは遠きにおいておもうもの。

います。離れてみて初めて、ふるさとのすばらしさに気づくことができました。今、ふるさとのために、私達に出来ることは何か…小さな積み重ねがやがて一歩を踏み出す力となるよう、この先少しでも考えてみたいと思います。

(長江出身 京都市在住)



私の小学校時代

そして現在

島田 英二郎

(昭和55年度卒)

小学校二年生の春、私は、大阪の小学校から鳥羽小学校に転校してきました。一学年六クラス、全校児童千人を超す小学校から、全校児童二百人に満たない小学校への転校。新しい学校での生活に期

待もありましたが、それ以上に不安でいっぱい気持ちは兄の後ろについて登校したのを、今でも覚えています。友達はできるかな、早く学校になれるかな、などなど。実際、学校への道のり

一つをとつても大阪の学校は歩いて五分程度の所にあつたのに対して、鳥羽小学校は、田んぼの中の寂しい道を二十分程度歩かなければなりませんでした。

しかし、その不安は、すぐにとりさられました。笑顔で迎えてくれたクラスメイト、先生方、そして学校全体がとても温かい雰囲気でした。休み時間には、クラスメイトはもちろん、他学年の人もみんな遊びました。大阪の学校では考えられないことでした。放課後も下校時間いっぱいまでみんなで遊びました。

学校のまわりの豊かな自然も、新しい学校での生活を楽しいものにしてくれました。帰り道でカブトムシを捕ったり、溝川でカメを探したり、冬の寒い朝には、田んぼの上に積もった雪の上を歩いて登校したり・・・。登下校の長い道のりも辛く感じることはありませんでした。

小学校時代の私は、どちらかというとやんちゃ坊主で、いたずらをしたり、友達とけんかをしたり、よく先生に叱られたように思います。もちろんほめられたこともあつたとは思いますが、先生方の叱るときに厳しい言葉、ほめてく

ださるときの言葉、くじけそうなきに励ましてくださった言葉、いろいろな場面でかけてくださった言葉の中にも温かきを感じました。そのおかげで学校へ行くのが嫌だと思つたことは一度もなかったように思います。鳥羽小学校で過ごした五年間があつたら、私は教師になりたいと思つたんだと感じています。

現在私は、市内の中学校で教師をやっています。十二年間小学校で勤めた後、中学校に異動し、現在の中学校で二年目になります。その中学校に赴任し、ハンドボール部の顧問をするようになりました。放課後練習をしていると卒業生が練習を見に来ました。彼は前キャプテンで、私が小学校最後の年に担任した生徒でした。

「ハンドボールしてたんや。」と声をかけると、

「きつかけは先生ですよ。六年生のとき先生がくれた日本リーグの観戦チケットで試合を見に行ったのがハンドボールを始めたきっかけです。」

という答えが返ってきました。

小学校時代彼は、少年野球チームに所属し、野球をやっていました。その彼に、

「絶対おもしろいから試合を見に行つておいで。」

と声をかけたのを思い出し、た。彼は、それがきつかけとなり、中学校でハンドボールを始め、高校生になった今もハンドボールを続けているそうです。

私は、それを聞いて何とも言えない嬉しさがこみ上げてきました。と同時に、私達教師が生徒達にかける言葉の重さを改めて思い知らされました。どんな小さな事であれ、ほめる言葉、叱る言葉、

励ましの言葉、生徒達にかける言葉は、彼らの人生に影響を与えているということを感じました。私が鳥羽小学校の先生方にかけて頂いた言葉のように・・・これからも私達が発する言葉の責任の重さを受け止め、日々生徒達と接していきたいと思えます。

(無悪出身 敦賀市在住)



多文化社会のおもしろさ

～オーストラリアでの

生活を通して～

大橋 夕紀

(平成6年度卒)

先日、本屋で「中学英語で京都が紹介できる本」(エール出版)を見つけ、購入した。

私は、昨年3月に、2年間のオーストラリアでの生活を経て郷里に帰つて来た。今の一番の楽しみはオーストラリアから来る友人を観光案内することだ。私との交流を通して、日本に興味を持ってくれたことが何よりうれしい。こ

の2年間の経験は私にとって本当にかげがえのないものであつたし、考え方に大きな影響を与えた。一般的にオーストラリアと日本は国同士も仲が良く、親日家が多いといわれている。現に、街を歩いていると、寿司屋や日本料理店も多く、友人の中には空手や盆栽など、日本の文化、芸術を習っている人も多かつた。しかし、これは

日本文化に限ったことではない。オーストラリアは多民族国家のため、世界各国からの移住者が生活している。レストランを決めるときにも、イタリア、インド、ベトナム、タイ、ギリシャ…とすぐに数種類のレストランが候補にあがる。私は、公立中高一貫校にて日本語教師のアシスタントをしていたが、そこで学ぶ生徒が持つ背景もばらばらであった。両親がそれぞれ違う国から来ている生徒は、父方の言語、母方の言語+英語という3ヶ国語を話せることも不思議ではなく（なんてうらやましい）、イスラム地方から移住してきた生徒は宗教の関係で婚期が早く、16歳で結婚をしている生徒もいた。依然、白人主義の文化が残っている場所もあるが、少なくとも私の周囲は多文化を積極的に受け入れていたし、それに対して寛大であった。自分を含め、自国の文化を受け入れてくれる雰囲気はとても居心地が良く、自分の存在価値を感じることが出来た。

反対に、日本を離れてなおさらその良さを感じることもあった。まずは日本食。色々な国の料理を食べたが日本食ほど繊細な味付けやコンビネーションを持つものはないのではないかと感じた。次に日本の技術。どこへ行っても日本車が走っているし、中古車の価格も日本のメーカーのものはより高値の傾向がある。テレビやデジタルカメラも日本メーカーのものが量販店に並んでいる。地球の裏側でも「良品」と認められるその技術は日本が誇れるものだと思う。日本の料理や技術の評価が高いのは完成度が高いからだろう。国際化という言葉が叫ばれて久しいが、私にとってこの2年間の体験は本当の国際化とは何かを学んだ2年間であった。初めは、英語の上達だけが目的であったが、生活の中で、言葉というのは、文化の一部でしかないと感じた。本当に必要なことは、自分と相手の文化が違うのは当然だと理解し、受け入れること、そしてその違いを楽しむ余裕を持つことだと知った。今は、若い世代に私が感じた異文化を知る楽しさ、おもしろさを伝えていくことが出来たらいいなと思っている。

(海土坂在住)



故郷の無意味に還る時

若 新 雄 一

(平成7年度卒)

この著しい文明の繁栄は、例えば大都市などによって僕達を「意味」という名の牢獄へと追いやってに違いない。歳とともにそれなりに知性的な文明人を気取った頃、それはより顕著になり僕達を脅かす。

「機能」に見事なまでに操作され、支配されていく。

例えば、現在大都市の中心に生活しているが、目的も無くなるとなく地下鉄のある路線に乗り込んで、なんとなくある駅に降りてみる…などといったことは皆無だ。たまたま立ち寄った街の景観に触れてみることもなければ、偶然に吸い込まれた喫茶店の店主と趣き深い会話に浸ることなどもない。張り巡らされた大規模な交通網が象徴する都市化がもたらしたものは、「どこにでも行ける」という自由などでは決してなく、「向かうべきところのみ向かわされる」という息苦しい束縛ではない。意味がないとされる行為は淘汰され、僕達は仕向けられて社会的意味があるとされる活動に精を出すのだ。そう、文明的な

「意味のない…、意味のないことは考えない…、意味のないことは考えない…、意味のないことに出すことに、意味を与えることに、意味を認めてもらうことに必死だ。それができなければ、時に僕達はその存在価値すらも否定されかねない。まさに僕達は「意味」に脅かされているとすら言えてしまえそうだ。元々「意味」などというものは、人間がお互いの理解を深め合うために作り出したルールのようなものに過ぎず、それは決して真理などではない。それに脅かされ支配されるなど、悲劇だ。

悲劇の主人公という訳でもないが、いつも快適な脱力感のある懐かしさとして思い出すのは小学生の頃のことである。朝早く起きること、学校に行くこと、授業を受けること、帰ったら宿題をやること、友達と競い合うこと、時々先

生に叱られ叩かれること…、それらはみな『なんとなく』あたりまえのことではかない。そのひとつひとつに何の意味があるかなどを確かめることもなく、また求めることもなく、それに脅かされることなどもありえない。今思えば理不尽であったことにも、それを疑うことに苦しんだりはいない。苦しみや悩みはもつと単純かつ直接的なものだ。それは、その頃は思春期も迎えずあまりに純真であったことも当然ながら、30分近い通学路に信号機一つない都市化のかけらも及んでいない山村にあったこともとても大きいに違いない。帰り道、山に捨て猫がいれば追いかけて、途中の公園で下級生が遊んでいれば合流し、時には家路とは逆にすらかかう。無計画さの中に巻き起こる「偶然」に溶け込みながら、それでも僕達は成長してきた。

幼き純真は思い出に過ぎず、二度とは戻らない。文明人を気取る自分達の抹殺など不可能だからだ。「意味」に縛られ追われても、待ち受けるのは途方もない虚しさだけだ。しかし、だからこいつしか故郷の「無意味」に救われ還る時がくるのかもしれない。

(南出身 東京都在住)

学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1年	9	7	16
2年	11	11	22
3年	11	10	21
4年	10	10	20
5年	8	15	23
6年	15	16	31
計	64	69	133

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	7	5	12
上黒田	2	4	6
麻生野	5	6	11
海土坂	4	4	8
三生野	4	4	8
無悪	3	7	10
三田	7	5	12
小原	3	5	8
南	2	3	5
山内	8	7	15
持田	1	1	2
長江	3	7	10
朝霧	15	11	26
計	64	69	133

【平成19年度 教育目標】

- ・自分で考え、よりよい行動ができる
- ・自他のいのちを大切にす
- ・人の話をしっかり聞くことができる

【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・学校経営総会
5月	春季遠足・内科検診・学力調査・PTA奉仕作業・鳥羽リニック
6月	避難訓練・プール清掃・ALT学校訪問・前期校内研究会・特別参観日・プール開き
7月	民生委員と語る会・教育懇談会・終業式
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・自由研究発表会・鳥羽地区体育大会・秋季遠足
10月	陸上記録会・敬老会・後期校内研究会・修学旅行・環境教育出前授業・校内マラソン・下校時不審者対応訓練・広葉樹植樹・プラザふれ愛交流まつり
11月	小中学校音楽発表会・鳥羽っ子学習発表会・特別懇談会・不審者侵入想定避難訓練・就学時健康診断・ALT学校訪問・おすすめの本発表会・器械運動発表会
12月	人権集会(山崎安雅氏講演)・学校経営総会・子育て講演会・終業式
1月	始業式・ALT学校訪問・学校給食週間・6年上中中体験入学
2月	スキー教室・なわとび発表会
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・終了式

平成18年度 鳥羽小学校同窓会決算書

<収入の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include Fees, Cooperation, Deposits, Misc Income, Carryover, and Total.

<支出の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include Meeting, Office, Business, Report, Education, Reserve, and Total.

平成19年度 鳥羽小学校同窓会予算書

<収入の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include Fees, Cooperation, Deposits, Misc Income, Carryover, and Total.

<支出の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include Meeting, Office, Business, Report, Education, Reserve, and Total.

平成19年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

Table listing officers and their names. Columns: Role, Residence, Name. Roles include Chairman, Vice-Chairman, Advisor, Executive, and Secretary.

Table listing officers and their names. Columns: Role, Residence, Name. Roles include Executive, Secretary, Treasurer, and various members.

編集後記

三月ともなれば、桃の花が微笑み、母校鳥羽小学校の校舎より卒業生を送る歌声が今にも聞こえて来る様な気が致します。

業生担任の先生及び同窓有志の方々に格別の御協力を頂き、編集委員一同が会報の作成に当たって参りましたが、何分にも不慣れゆえ、至らぬ所も有ろうかと存じますが、何卒ご容赦下さいませよう御願致します。

(松宮記)

地域の教育力をもらい、地域に出かけ、地域と共に生きる鳥羽小

低学年よみかかせ



児童の安全見守り



スキー学習の指導



英語の特別非常勤講師



「パレオ」で高齢者と交流



育児についてママから学ぶ



「気象予報士」の出前授業



「水系を守る会」と連携し8,11月に魚類とホタルの幼虫観察会



鳥羽っ子学習発表会



鳥羽地区敬老会



鳥羽地域・学校協議会



「生活科・総合的な学習」発表

児童の元気な姿を見ていただく

地域に開かれた学校について協議